

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300202		
法人名	社会福祉法人相清福祉会		
事業所名	グループホーム陶ヶ岳		
所在地	山口県山口市鑄銭司2361-38		
自己評価作成日	平成28年3月28日	評価結果市町受理日	平成28年10月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年4月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム陶ヶ岳の指針として、『ゆったりとした時間の流れの中で、温かい家庭的な雰囲気を大切に、ひとりひとりが居心地が良いと感じられる空間』になるように努めます。
 家族・地域とのつながりを大切にし、笑顔のある生き生きとした生活が送れるように努めます。
 住み慣れた場所ですらいつまでも変わらずに生活が出来るように、日々の関わりを大切に、安心して生活が出来るように努めます。
 家族と話し合いと行いながら、出来るだけ長く陶ヶ岳で過ごしてもらえるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は数多くの外部研修や法人研修、内部研修に参加しておられ、それぞれに研修後は復命報告をされ、資料の回覧もして、職員間で共通理解をしてサービスの質の向上に努めておられます。内部研修は年間の大きなテーマとして認知症についての理解を揚げられ、ケアの原則、24のルール、原因疾患ごとの特徴、高齢者虐待に関する考え方など、年12回、職員が講師を務められ実施しておられます。日常会話の中で把握されたパチンコが好きだった本人の思いを活かされて、パチンコ店に行くことを目標に思いをかなえられるように支援に取り組みされています。八十八か所お大師参り時に馴染みの札所で接待されている地域の人との交流を続ける支援をしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の独自の指針を事業所の目のつく所に貼って掲げており利用者の方がよりよく生活できるよう少しずつだが話し合いを行っている。日頃から理念を頭に入れて、日々の介護を考えて取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。カンファレンス時や日常業務の中で確認して、共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、お大師参りへの参加や、地域の方が月一回ボランティアに来られ、利用者や利用者家族と一緒にギター演奏会等交流し触れ合う場を設けている。	運営推進会議のメンバーである民生委員より地域の催し物の情報を得て、鑄銭司の祭りや秋穂の祭りに出かけ地域の人と交流している。地元の八十八ヶ所お大師様参りに出かけ、札所の接待を受けるなどで交流している。総合支援学校の運動会の見学に利用者や職員と一緒に出かけている。ボランティア(月1回ギターとハーモニカのミニコンサート、フラダンス、流行歌を歌う、傾聴など)の来訪がある他、看護学校の実習生の受け入れなどを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所全体としては行っていないが、法人としてはセミナー等で寸劇を行いながら伝えて取り組みを行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の内容は指摘を真摯に受け止め、職員にも目を通してもらえるよう掲示し、改善できる部分は改善していくよう努めている。	管理者は評価の意義について職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布し記入してもらい、管理者とリーダーがまとめている。評価を活かして法人研修の赤十字救急法講習に参加している他、ノロウイルス感染症対策、食中毒予防など初期対応について学んでいるなど、改善に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、包括職員・民生委員・家族・利用者の方達に参加してもらい、現状報告や季節の行事等実践した内容を報告し、会議の中での助言や意見を出してもらいながら、サービス向上につなげるようにしている。	年6回開催し、うち1回は家族が参加しやすいように土曜日に開催して5名の参加を得ている。入居状況や活動内容、外部評価結果報告、避難訓練等の報告をして、話し合いをしている。活動内容としてイルミネーション見物についての報告に対して事業所でもできるイルミネーションを飾ってほしいというメンバーからの提案があり、実施方法を検討している。	・参加メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議時に情報を交換している。	市担当者とは、書類提出時等に出向いて、相談や情報交換をしている他、電話でも相談や情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に利用者状況等について情報交換をしているなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体での研修では身体拘束について学ぶ場を設けており、職員も把握できるように努めている。日中玄関のカギは常に開けており、自由に入出りできるようにしている。利用者が玄関を開けて出ようとする際は、職員も一緒に出て安全を確保しつつ見守りを行うが、行動の制限はしないように努めている。ベッド柵等での拘束も行っておらず、身体拘束をしないケアを行っている。	外部研修や法人研修で学んだ職員が、内部研修時に復命報告をして全職員で共有して理解し、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。日中玄関は施錠せず、利用者が外出したい時には、職員と一緒に出かけたがり、気分転換などの工夫をしている。スピーチロックについては管理者が注意している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は勉強会でも取り入れており、周知徹底している。身体の観察も行き、見過ごすことがないように注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている利用者はいないが、成年後見制度について、勉強会でも取り入れ知識を習得していき、個々の必要性についても話し合い対応していけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に十分に説明を行い、理解・納得の上で、契約開始を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口担当者、第三者委員会を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。年に2回家族会を実施しその時にご家族より意見・要望等を聴いている。普段の面会時にも声をかけ、要望を聞いている。	契約時に相談、苦情の受付体制や第三者委員、処理手続き等について家族に説明している。面会時や年2回の家族会、運営推進会議時、事業所だより送付時、電話等で家族から意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに関する要望には対応している。職員に名札をつけて欲しいという要望があり、検討中である。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案があれば、話を聴く機会を設けて、検討し反映させるように努めている。月に一度話し合いの場を持ち、本人の意見や提案を聴いている。	管理者は月1回のグループ会議時で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で聞いている。行事に合わせての勤務表の変更についての提案などを反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせて職場環境を作り、やりがいをもてるように整備している。給与水準は、人事考課を活用し昇給に反映している。勤務状況を把握し、向上心を持ち努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修には出来る限り参加する機会を持たせ、職員一人一人のスキルアップを図っている。法人内の研修や月に一度の勉強会には、参加し、また利用者に関わりながら、考え方や方法を身につけることができるよう努めている。	外部研修は月1回のグループ会議時に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は認知症介護実践研修や高齢者虐待防止などの研修に新人も含めて10回参加している。受講者は、復命報告をして、資料を回覧し、共有している。市の施設サービス部会主催の防災研修や高齢者虐待防止従事者研修会等に4回参加している他、山口県宅老所・グループホーム協会の研修会にも参加している。年10回の法人研修には職員が交代で参加し、食中毒予防、救急法、感染性胃腸炎予防、コミュニケーションなどを学び復命報告をしている。内部研修は、年間の大きなテーマとして、認知症についての理解を揚げ、ケアの原則、24のルール、原因疾患ごとの特徴、レビー小体疾患、アルツハイマー病、誤薬のリスクマネジメント、食事介助と嚥下障害、食べないときの原因と対応、高齢者虐待に関する考え方、ストレスが生じやすい介護場面と対処法など、年12回職員が交代で講師を務め、資料を準備して研修に取り組んでいる。新人研修は法人研修受講後は先輩職員について働きながら学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、同業者とのネットワーク作りや相互訪問等の活動を行い、良い面を見習い、サービス向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方が対象ではあるが、本人の不安や要望等を傾聴して把握し安心して過ごせる様努めている。利用者の立場に立って物事を考えるようにし、日頃から話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初に家族の要望や困っていることを聴くようにし、ある程度は把握できるように心がけている。何かあればその都度相談してもらえるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面接を行い、どのような支援が必要か情報収集して支援するように努めている。本人とご家族が大切・大事に思われていることを優先するようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることは行ってもらい、いろいろな部分で役割を持っていただき、本人のペースを守るよう努めている。暮らしを共にし、支え合う関係を築けるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時には話をする場を設け、利用者の方の近況報告等したり、利用者や家族と職員で話をするようにしている。本人とご家族との絆を大切に、要望を聴くことができるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が育ってきた場所に近くまでドライブに行ったり、家族の協力を得て自宅へ帰宅する機会を設けている。美容院も今までの行きつけの場所にお連れするなどし、馴染みの関係が途切れないように配慮している。	家族や兄弟姉妹、孫、親戚の人、奉公先の家族の人、職場の後輩の来訪がある。馴染みの美容院の利用や八十八か所お題所様の馴染みの札所参り、かかりつけ医受診後の一時帰宅、電話や手紙の支援をしている。家族の協力を得ての外出、外食、墓参り、法事への出席など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中に職員も入り、会話をする機会を設けている。また、レクや家事・料理作りなど、職員・利用者同士が共同、協調できる機会を通じ、利用者同士の良好な関係づくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方の要望・意向等聞き、できるだけ本人のニーズに応え、実践できるよう把握し努めている。	入居時の基本情報シートやセンター方式シートを活用している他、日常の関わりの中での会話の内容や様子をケース記録や申し送りノートに記録して思いや意向の把握に努めている。パチンコ店によく行っていた話を聞き、パチンコが好きだった本人の思いから、パチンコ店に行くことを目標にして、思いをかなえることができるように支援している事例がある。困難な場合は職員間で話し合いをして本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される前に家族に本人の今までの生活についてシートに記入してもらい、生活暦等の話を聴いて把握するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態をしっかりと目で見て確認したり、本人と生活する中で把握し、その人に合った暮らしを提供できるように、職員間で話し合うように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を把握し、毎月グループ会議を行い、問題点や改善点を話し合い、介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心として月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や訪問看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態の変化に応じてその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過記録を個別に記録し、情報を共有化している。気づき等がある時は、連絡帳に記入している。それらを踏まえてケアプランの見直しにいかしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りニーズに対応するようにして柔軟な支援や他のサービスとの併用をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の行事に参加したり、ボランティアの受け入れなどを通して交流をしている。移動美容室の方にも来てもらっている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を設けているが、事業所の協力医療機関に関わりなく、ご利用者・ご家族の希望する医療機関を受診できるように配慮している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の定期受診や他科受診を事業所が支援している。利用者の情報は口頭で医師に伝えている。受診後は面会時や電話で家族に説明している。職員間では受診記録に受診内容や注意点などを記録して共有している。緊急時にはかかりつけ医や協力医療機関に連絡をし、指示を受けて対応しているなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から、毎週一回は訪問看護に来てもらっており、医療連携ノートや口頭で変化等を伝えるようにしている。また、緊急時はすぐに訪問看護と連携がとれる態勢を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療退院の戸連携を図っており、病院関係者との情報交換や相談に努め、利用者や家族が不安にならないように努めている。入院時、早期に退院できるように、利用者の状態を密に確認し、病院関係者と連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、家族会で話をしており、今後の方針を決められるようにして支援している。事業所でできることについても説明をしている。	契約時に「重度化の対応に関する指針」に基づいて事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有して取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止について、事故が起きた内容をなぜどのように起こったのかを記入しており、まとめて掲示している。注意点や今後の対応策も考えており事故防止に努めている。事故発生時の訓練を行っていきたい。	事故、ニアミス報告書にその日の職員間で改善策を検討して記録している他、連絡ノートにも記録し、申し送り時に説明して、回覧し共有している。月1回のグループ会議時に再検討して、必要に応じて介護計画に反映するなど、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生に備えて、法人研修で赤十字救急法講習や感染性胃腸炎の予防拡大防止をテーマにした法人研修を受講している他、内部研修で嚥下障害やノロウィルスの嘔吐物や排泄物の処理方法などを学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害を想定して避難経路を確認しながら訓練をしている。可能であれば消防署立会いの下、直接指導を頂いている。近隣事業所への協力要請や通報、職員間での緊急連絡等職員に周知するよう努めている。	年2回、事業所独自の昼夜想定通報、消火、誘導避難訓練を利用者も参加して実施している。法人施設からの協力体制(避難時の受け入れ、備蓄の確保等)はできている。法人施設と総合支援学校が協力体制を築いているが、地域との協力他愛性を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた敬意を持った、個々のプライバシーに配慮した声かけを行う様にしている。介助をする前に声かけをしたり、居室やトイレの開閉の配慮をしている。	法人研修で「認知症の理解とコミュニケーション」について学び、職員は一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保について理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけや対応がある時には、管理者が注意している。個人情報取り扱いに注意し、守秘義務について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉や表情などで希望や好みのものが把握出来る様に努力している。また、コミュニケーションを図る中でも思いを把握出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合った暮らしを提供できるように努める。起床時間が一人ひとり異なる。また、予定を決めずにその時の気分で外出したりする様にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床時整容を行う。本人・家族の希望で洋服等の買物外出の支援を行っている。季節にあわせた服装の配慮等支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けは利用者にしてもらい、においや目で楽しんでもらえるようにしている。食事中も職員がせかすことの無いようにゆっくりと楽しめるように会話をしたりゆったりとした空間作りを心掛けている。片付けなども一緒に行っている。	朝食は事業所で調理し、昼食と夕食の炊飯以外は法人からの配食を利用している。利用者は人数分の皿や汁椀に均等に盛り付けたり、台拭きやお茶を入れるなどをし、食後は下膳や食器洗い、食器拭きなどできることをしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べている。事業所の畑で栽培したトマトやキュウリ、ピーマンなどを朝食の副菜として利用している。週1回の昼食づくりでは、利用者の好みを聞いてメニューを決め、食材の買い物から一緒にしている。おやつにホットケーキを焼いたり、畑で収穫したサツマイモを使ってスイートポテトをつくっている。誕生日会には、スポンジケーキを買ってきてトッピングでデコレーションをしている。弁当を買ってきて戸外で花見をしたり、臼と杵で餅つきをしているなど、季節を感じることも取り入れている。外食として、地域のふるさと祭りに出店しているうどんを食べたり、回転ずし店の利用、喫茶店でソフトクリームやアイスクリームを食べに出かけている他、家族の協力を得て外食をしているなど、食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて1日の本人の摂取量・水分量を把握し提供している。体重増加傾向の方や栄養不足の方等食事量を調整して提供している。また、食事形態も本人の飲み込みやすい形を把握し、その人に合わせた形態にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず行えるよう声かけをし、自分で出来る部分は本人に行ってもらっている。夕食後は義歯を預かり義歯洗浄を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日排泄表チェックし、一人ひとりの排泄パターンを理解し、定期的に声かけをするなどし、オムツ使用を減らすようにしている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して、利用者一人ひとりにあわせた声掛けや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との連携を図り下剤の調整や坐薬の使用、牛乳を飲んでもらったり腹部マッサージ・運動等行って排便を促している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否がある場合は無理に入浴せず、時間をおいて声かけを行い話を聴いたり音楽を流したりして楽しく入浴してもらっている。個々の状態や気分、気持ちに沿った声かけを行い、入浴の介助を行うように努めている。	入浴は10時30分から12時までと、13時30分から18時までの間に、利用者の希望に応じて毎日ゆっくりと入浴できる支援をしている。入浴中にクラシックや民謡のCDを流したり、昔話などいろいろな話をして、ゆっくり過ごせるようにしている。入浴したくない人には声かけの工夫や時間の変更、職員が交代するなどの工夫をしている。体調に応じて清拭、足浴、シャワー浴での対応をしているなど、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息や睡眠がとれるように支援している。1日の流れの中で、疲れや眠気が見られた時はソファに座ってもらったり、居室で休んでもらったりしている。日中も活動等提供し、夜間の睡眠に努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分かりやすいように服薬確認表を作成しており、薬箱の作成・日付の記入をし、職員同士で確認しあい誤飲の無いように努めている。本人の薬の名前を確認してから服薬介助をしている。日々、利用者の変化の観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔のようなことをされていたのか情報収集し、利用者1人ひとりの得意不得意を理解し役割を持ってもらえるように努めている。また、家事などの手伝いが行える利用者には声かけをしたりして、無理のない程度に行ってもらっている。	ボール遊び、旗上げゲーム、ぬり絵、貼り絵、ラジオ体操、テレビ体操、DVDやテレビ視聴(歌番組など)、野菜づくり、収穫、ウッドデッキでの月見、ボランティア(ギターとハーモニカのミニコンサートや歌を歌う、傾聴など)との交流、調理の下ごしらえ、盛り付け、台拭き、配膳、下膳、食器洗い、うどんづくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、季節の行事(クリスマス会、餅つき、豆まき)など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、外食、散歩等できる限り支援している。個々の外出状況を記録し、外出の機会を多くもてるよう支援している。本人の要望に添った外出支援や、皆で行う外出行事など、積極的にこれからも展開していけるように努める。	散歩や買い物、外気浴、鑄銭司の祭り、秋穂の祭り、八十八ヶ所お大師様参り、総合支援学校の運動会の見学、法人の敬老会への参加、季節の花見(桜、菜の花、バラ、コスモス、紅葉など)などに出かけている他、家族の協力を得ての外食、買い物、墓参り、法事への出席など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は預かっているが、必要時に買い物に出かけたり、本人の希望があれば購入する。訴えのある利用者に対して、自室で管理し職員も把握している。お金の制限はせずに、できるだけ本人が購入したいものを購入できるように支援する。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けることは少ないが、本人の希望があれば事務所で電話ができるように家族の了解を得ている。電話や手紙のやり取りができるよう支援している。月に一度職員からご家族に宛てた利用者の写真付きのお手紙を送付して状況等わかるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により廊下や玄関に飾りや張り紙を変えている。生活感や季節感を取り入れて工夫している。	共用空間は広々として、大きな窓から入る陽ざしで明るく、大型テレビやソファが配置してあり、ゆっくりと過ごせるようになっていて利用者の居場所となっている。玄関には家族から提供の桜の花模様のプリントのタペストリーが飾ってある他、ドライフラワーや季節の花が生けてある。ユニット毎にウッドデッキがあり、日向ぼっこやお茶を楽しむことができる。廊下には季節感のあるぬり絵や行事の写真、利用者の写真を飾って、温度、湿度、換気等に配慮し、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルから離れた所にソファを置いたり少人数でも過ごせるような空間作りやホールでの利用者の配置(席)を工夫している。ソファをおきくつろげる空間を作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具や私物を持ってきて頂き、本人の落ち着く空間をつくれるように今までと環境が変わらないように努めている。ひとりひとりに合った家具の配置をしている。	半畳の畳、丸テーブル、ソファ、タンス、戸棚、藤の家具、小型テレビ、衣装ケース、衣裳かけ、鏡、乳液などの化粧品、生活用品やぬいぐるみなどを持ち込み、利用者の作品を飾って居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の表札など利用者が分かりやすいように職員で工夫・自作し掲示している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム陶ヶ岳

作成日: 平成 28 年 10 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議のメンバーの拡大が必要である。	参加メンバーの拡大を行う。	①参加メンバーの検討をし、拡大を図る。	1年間
2	35	全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続が必要である。	応急手当や初期対応の定期的な訓練を行う。	①応急手当や初期対応ができるように勉強会や定期的な確認を行う。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。